

にしっこ 西っ子のみなさんへ 109 9月22日

あす 明日9月23日は、^{しゅうぶん}「秋分の日」ですね。お彼岸で、お墓参りをする日です。

この時期、^{じき}道を歩いていると目に入るのが「^{あかい}赤い花」の彼岸花です。別名は^{まんじゆしゃげ}曼珠沙華です。^{げんさん}原産は中国で、^{ちゆうごく}道端や土手などに^{ぐんせい}群生し、秋の彼岸のころに、^{かけい}花茎の先に赤い花を咲かせます。花期が過ぎた後に^{あし}葉が伸ばし、^{きゆうこん}球根に^{えいよう}栄養を貯めて枯れるという^{めずら}珍しい性質をもっています。

土の中にある^{きゆうこん}球根には毒がありますが、昔、^{しょくりよう}食料がない時には、球根にある^{どくぬ}デンプンを毒抜きして食べることもありました。

花の色は「赤」しか浮かびませんが、実は白、ピンク、黄、クリームなどもあります。



^{ひがんばな}彼岸花の不思議なところは、^{ふしぎ}どうして彼岸の前後に^{いっせい}一斉に咲くことができるのかということです。^{ふつうしょくぶつ}普通植物は、^{にっしょうじかん}日照時間や^{きおん}気温をもとに、ある^{じょうけん}条件になった時に花を咲かせます。

しかし、彼岸花は、土の中であって、^は葉も出していないので、どのように花を咲かせる^{じょうけん}条件を感じているのでしょうか？ とても不思議です。

調べてみると、彼岸花は土の中の^{おんど}温度を感じて花を咲かせるようです。^{ふゆ}冬の寒い時期を^{すこ}過ごし、^{あたた}少し暖かくなった^{はる}春ごろから、花を咲かせる^{じゅんび}準備に入るみたいです。しかし、夏の暑い時期には^{なつ}生育が止まり、^{あつ}少し温度が下がって、土の中の温度が^の20℃ぐらいになると花茎を伸ばして花を咲かせるということです。そのため、^{かんさい}関西の方が^{ほう}関東の方より10日ほど花期が^{おく}遅れるみたいです。

冬でも^{ふゆ}最低温度が20℃を下回らない^{さいたわ}温室の中で育てると、^{おんしつ}寒さを感じていないため、花をつける^{そだ}準備が行われず、^{さむ}葉は出るので、花は咲かないそうです。球根がちゃんと温度を感じているということです。

多くの植物は、^{おお}花芽が作られるために、^{はなめ}数日から数週間^{つく}低温にさらされる必要があります。つまり冬の寒さを^{すうにち}経験して春を迎えると、^{ていおん}気温が関係して花芽が^{ひつよう}大きくなり、やがて花が咲かせるわけです。

日照時間がある^{きじゅん}基準より長くなると花芽をつくるもの（キキョウ・フヨウなど）。逆に^{みじか}短くなると花芽をつくるもの（キク・ツバキなど）もあります。

^く繰り返しになりますが、^{かえ}植物もわれわれ人間と同じように、^{しょくぶつ}季節を感じながら^{にんげん}生活をしているということです。